

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日	水曜日13:00～14:00	会長	菊地富士子
例会場	ANAクラウンプラザ グランコートホテル名古屋	幹事	山田智博
承認	2013年6月18日	公共イメージ 向上	藤谷 猛



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021～2022年度名古屋アイリスRCのテーマ

ロータリーの輪を広げ、共に奉仕しよう。
～心に豊かさを～

●お問い合わせ：office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト：http://www.nagoya-iris-rc.jp

第403回 例会

2022年5月25日 13:00～

- 司会 生田瀬津子 例会・出席・親睦委員長
- 斉唱 手に手つないで
- 出席報告 出席者数 17名 / 27名
出席率 62.96%
- ゲスト 東京紀尾井町RC 目代順平 様
名古屋大学大学院医学系研究科 小
児科学 教授 高橋義行 様
- ビジター 名古屋大学附属病院 チャイルド・ラ
イフ・スペシャリスト 佐々木美和 様

ニコボックス

- 菊地富士子 会長
高橋教授、佐々木様 本日は宜しくお願ひ致します。
- 加藤正広 副幹事
名古屋大学高橋教授、佐々木様、例会にお出で下さりありがとうございます。お話を楽しみにしています。
- 安井忠 ロータリー財団委員長
高橋先生お世話になります。また、加藤君ありがとう。
- 荒山久美 米山奨学委員長
高橋教授、佐々木様、本日お越し頂きありがとうございます。
- 岩崎幸弘 公共イメージ向上委員
ごめんなさい。今日の例会、途中退出させていただきます。一応、仕事のため...です。

会長挨拶



こんにちは。第403回例会です。会員の皆様ご出席ありがとうございます。本日は名古屋大学医学部附属病院小児がん治療センター高橋義行教授、チャイルド・ライフ・スペシャリスト佐々木美和様、東京より紀尾井ロータリークラブ目代純平様に

お越しいただきまして誠にありがとうございます。

高橋教授、佐々木様をはじめ名大病院の皆様には社会奉仕事業を通じてご縁をいただきましてから大変お世話になっております。奉仕活動を進めるにあたり

ールやzoom等も活用し意見を交換させていただき、高橋教授よりの確なご意見をいただきました。ありがとうございました。後程、本年度の社会奉仕事業の目録贈呈をさせていただきます。金30万円を贈呈の内容としては、WIFI機器(学童のお子様がzoomを使い授業を受けることができます。その環境が十分に整っていません。)及びその設置運用費、そして星つむぎの村などによる星座鑑賞支援金です。

先月、星つむぎの村の高橋真理子さん、名古屋大学病院小児がん病棟に入院されていましたさちちゃんのお母様にアイリスロータリークラブの例会に出席いただき、さちちゃんがプラネタリウムを大変楽しんでいただけたことをお母さまがお話くださいました。大変うれしく思いました。さちちゃんに限らず他のお子様にも好評でアイリスロータリークラブの企画以来名大病院小児科病棟では毎年星座鑑賞をされているそうです。後程高橋教授より卓話を頂戴します。どうぞよろしくおねがいします。この事業を通じて相手の立場になって奉仕をするということを学ばせていただき感謝申し上げます。これからも名大病院との事業を引き続きしてまいりたいと思っておりますので、ご縁がございましたときはどうぞよろしくおねがいします。

先日来日されたアメリカ大統領ジョー・バイデン氏についてお話し会長挨拶とさせていただきます。日本、アメリカ、インド、オーストリアの各国首脳による「クアッド首脳会合」が行われました。岸田総理ご夫妻はバイデン大統領と八芳園にて夕食会をともしました。その際お茶室に「千里同風」と書かれた掛軸がかかっておりました。その意味は遠く離れていてもここは通じ合っているという意味です。以上でございます。ありがとうございます。

目録贈呈



本年度の社会奉仕事業として名古屋大学附属病院小児科病棟へWIFI機器の設置運用費及び星つむぎの村などによる星座鑑賞支援金として金30万円の目録贈呈式が行われました。目録は菊地富士子会長から贈呈され名古屋大学大学院医学系研究科小児科学 教授 高橋義行様にお受け取り頂きました。

卓 話

小児がん医療と支援の現状
～未来を担う子供たちを支える～

【名古屋大学大学院医学系研究科小児科学
教授 高橋義行 様】



【要旨】

小児がんとは、生まれたときから15歳まで(一般的に小児期)に見られる悪性腫瘍の総称です。小児がんの対象疾患には、①白血病(急性白血病、慢性白血病 約3～4割)、②中枢神経系 脳腫瘍・脊髄腫瘍 約2割、③神経芽腫(神経芽腫・神経節腫 約1～2割)、④悪性リンパ腫 約1割、⑤その他: 眼腫瘍、骨軟部腫瘍 骨肉腫、横門筋肉腫、ユーイング肉腫 など)、腎腫瘍 ウイルス腫瘍など)、肝臓腫瘍 肝芽腫など)、性腺腫瘍、悪性組織球症などがあります。

小児がんによって毎日2人の子どもの命が失われています。「小児がん」は、5～15歳の子どもの病死原因の第一位です。この東海北陸ブロック(6県)の小児がんの医療体制としては名大附属病院、三重大附属病院、静岡県立子ども病院が小児がん拠点病院となり、21の病院で小児がん診療連携が行われています。中でも小児がん拠点として名大病院が評価点トップとなっています。また、全国を7つのブロックに分け地域ブロック別に15病院が選定されブロック内で連携していますが、小児がん拠点病院の評価順位でも名古屋大学医学部附属病院は1位となっています。

2013年11月には、名古屋大学医学部附属病院敷地内にオープンした『ドナルド・マクドナルド・ハウスなごや』は、自宅と同じように過ごせるように、病気の子どもを持つ母親同士のコミュニケーションの場を提供し、患者・家族の支えとなっています。

神経芽腫は胎児期の神経冠(Neural crest)に由来する副腎髄質、交感神経節から発生します。小児固形腫瘍の中で、最も頻度が高く、小児固形腫瘍による死亡者数第1位の疾患です。多くが進行期であり骨髄・骨転移が多くなっています。名古屋大学でも進行神経芽腫に対する新規治療法の開発が行われていますが、名大病院の臨床研究としてKIRリガンドミスマッチ臍帯血移植があります。また CAR-T 療法(キメラ抗原受容体遺伝子導入 T 細胞療法)も研究されています。これは抗がん剤が効かない ALL や移植後再発した ALL に対して、白血病細胞表面の CD19 抗原に結合するキメラ抗原受容体(CAR)を、患者さんの T 細胞に遺伝子導入して、患者さんに戻す治療です。完全寛解率(CR 率)80-90%の良好な成績が相次いで報告されています。

しかし、これらの薬価は1回3349万円と高額な薬価が設定され、国内での保険適用のあり方が注目されています。厚生省は治療対象者が最大で年間216人、販売額は年間72億円規模と予測しています。ただ、現在も関連した研究が進められており、今後適用範囲

が拡大される可能性もあります。名大、信州大ではチームを組み臨床試験を行っています。これは欧米で行われている従来の手法より、費用は大幅に安くなり、試験が順調に進めば、今後の治療法の主流となる可能性があります。

国内だけでなく CAR-T 細胞療法をタイの国立病院で実施できるよう、名古屋大学の医学部が支援することになりました。名大が研究を進める技術はコストダウンが可能であり経済力の弱い発展途上国での白血病治療の全身に役立てる事が出来ます。

つぎに入院中の子供たちへの教育についてですが、長期入院による学習機会の減少、学習の遅れが出てきます。これは学習意欲、自尊心の低下を招きます。これに対応すべく入院中の子どもへの教育支援の意義を考え、がんの高校生に対し孤独救うオンライン授業を実現し留年の回避、つなぎ役に存在感を見出しています。

また「きょうだいの会」を創りきょうだいへの心理的社会的支援を行っています。きょうだいの会の目的は、①病院できょうだいが主役となる事、②きょうだいにあなたが大切というメッセージを伝える事、③きょうだいが病院を身近に感じる事ができること、④きょうだい同士が知り合い、自分だけでないと知る事です。そして入院中(外来通院中)の患者のきょうだい、のべ32名によるオンラインきょうだいの会も関東・関西・九州からの参加も含め行われました。

環境に対する工夫では、クラウドファンディングで寄付を募り CT、PET、MRI などの機器に子供たちが喜ぶような装飾を施し苦痛を減らすなどの努力をしています。中部の14病院から70名の小児がんの子供たちとご家族をナゴヤドームに招待した事もあります。名古屋アイリス RC による院内でのプラネタリウムによる星座観賞も大好評でした。

このように名古屋大学病院など「小児がん拠点病院」では、造血細胞移植や遺伝子改変 T 細胞(CAR-T 細胞)療法といった先進医療を提供しています。長期入院中は、院内学級への転校、治療による学習の遅れなど、こどもは様々な困難をかかえており、学習へのサポートが必要です。子どもと家族が安心して再び学校生活を送れるよう、医療機関と教育機関の連携(復学支援)が重要です。小児がん患者のきょうだいなど家族への支援も大切です。小児患者さんご家族へ支援いただき、多くのボランティア、企業の方のご支援に感謝しております。

本日は、ありがとうございました。

